

第43回青森県「ごはん・お米とわたし」作文・図画コンクール審査員講評



図画部門の審査風景



作文部門の審査風景

審査員講評／作文部門



青森市立千刈小学校
教諭 長崎 雅仁

今年も、ごはんやお米に関わる体験を通して、家族の結び付きや周囲の人々への感謝の気持ちが綴られた作品が多く寄せられました。これらの作品を読ませていただき、ごはん・お米が、私たち日本人にとってなくてはならない存在であることを感じました。

家族で囲む食卓のぬくもりを描いた作品に加え、お米を通して日本の文化や伝統に目を向けた作品が見られ、日本人にとってのご飯・お米の意義を改めて考えさせられました。

また、家族のためににおにぎりやのり巻きを作ろうと思い立ち、実行したこどもたち、それを取り巻く家族の目の温かさを描いた作品も、読んでいて明るい気持ちにさせてもらいました。



青森市立泉川小学校
校長 原子 雄治

お米を通し、自分を取り巻く方々への感謝が綴られた作品が多く、心に残った作品には、①自分の思いを素直に表現 ②自分なりの独特な感覚を独自の言葉で表現 ③目の前に場面が浮かんでくるような会話文 ④汗水垂らした自分の体験を詳しく描写 ⑤将来の自分の姿について考えたこと ⑥社会情勢などに絡めて（主に上学年） などが見られました。

今年度の特徴として、「家族の団らん」の大切さを訴える作品が多かったように思います。また、語彙が豊かな作品も多く、表現力の向上が見られています。作文は自分の感動を伝えるものですので、自分の心が大きく動いた場面を中心に組み立てることが大切です。



日本国語教育学会 理事
青森明の星中学・高等学校 副校長
高橋 光夫

今年は猛暑、大雨などの異常気象に見舞われ、米作り、米不足など、特に「米」が注目された年となりました。

家族のために初めて作るおにぎりを通して、作ってもらうことへの感謝を書いた作品。家族の入院をきっかけに、初めて米を研ぐという手伝いをして、当たり前のあるありがたさに気づいた作品。各部門、秀逸した作品の数々でした。その中で、小学校部門から、食品ロスを防ぐ科学者を目指して、世界を俯瞰し、警鐘を鳴らす作品。中学校部門からは、農家の高齢化、気候変動、米不足など、世界的視野で書かれた作品が出てきています。推敲の精度を上げることで、伸びる作品がたくさんあります。大いに期待しています。



東奥日報社
生活文化部 部長
秋元 宏宣

ごはんやお米にまつわる心温まる作品に、今年もたくさん触れることができました。みなさんとともごはんが大好きで、何より家族一緒に食卓を囲むことが大好きだということが伝わりました。

初めて作ったおにぎりをおいしいと言って食べてもらえた喜び。「いただきます」というあいさつが日本にしかない特別な言葉だと気づいたこと。弟が病気になったことで、家族そろって食べられる食卓のありがたさを知ったこと。入賞したこれらの作品は、ごはんを通して深く心に残った思い出を素直に表したもののばかりでした。家族の絆を深めるごはんの大切さを忘れないでほしいと思います。

審査員講評／図画部門



青森児童美術研究会
理事 工藤 玲子

今年は、応募校数が前年より少なかったものの応募点数が増加して251点でした。審査会場一杯に「お米・ごはん食の大切さ」を独自の構図、彩色の工夫で心を込めて表現した作品が並び、嬉しく思いました。

審査は、小学校1学年から中学校3学年までの作品を3部門に分け、各部門の中から入賞候補をあげました。さらに、その秀作の中から特に優れている作品として、次の三賞を決定しました。

●青森県知事賞 青森市立浪打中学校 3年 三浦 一花「すくすく育つ」

大きな窓から柔らかな光が差し込んでいる部屋で仲良く二人でお寿司を食べている場面を一人さんならではの奥行きのある構図、優しい色合いで丁寧に表現した素晴らしい作品です。

白いテーブルと黒色の容器の対比が効果的で、エビ、イクラ、白身魚などのにぎり寿司や軍艦巻が一一層引き立って見えます。美味しそうに食べている二人の表情豊かな表現は、特徴をよくとらえ、光と影を筆の運びや筆のタッチ、混色、重色、にじみ、ぼかし等の技法を用いて巧みに表現しています。

●青森県教育委員会教育長賞 八戸市立是川小学校 5年 中居 凜鳳「田植えてむずかしいな」

画面中央に橙色の半袖Tシャツ、青色の帽子で腰をかがめて一生懸命、田植えをしている姿が目飛び込んでくる印象的な作品です。

水田の彩色は、凜鳳さんの工夫で焦げ茶色の上に水色で透明感を出しながら彩色しています。たくさん植えた苗も黄緑色と緑色でしっかりと描いています。遠近を考えた二人の構成は見事で、遠くで田植えをしている白のTシャツ、青色の半ズボンの友だちも工夫して表現しています。

●青森県農協中央会会長賞 七戸町立城南小学校 2年 免内 蒼士「おじいちゃんのおこめでみんなでもちつき」

おじいちゃんのつくったもち米でみんなで餅つきをしている様子を画面一杯に楽しく表現した素晴らしい作品です。画面中央に蒼士さんが重たそうな杵を振り上げた瞬間を大きく描き、周りの様子は小さく描いて画面構成を工夫しています。餅つきを見守っているおじいちゃんやつきたてのお餅を待っている人、お餅を切っている人、犬も一緒に見ていたことも忘れず描いています。明るく弾んだ声が絵の中から聞こえ、毎年お米をつくってくれるおじいちゃんへの感謝の気持ちが伝わってきます。



青森児童美術研究会

理事 中谷 則子

図画部門は、応募点数が昨年よりも多かったとのこと、大変嬉しく思うと同時に、子ども達の頑張り先生方の熱心な指導に敬意を表します。子ども達のメッセージを見逃さないように一枚ずつ注意深く見させて貰いました。

家族や友達等と一緒にごはんを作ったり、食べたりした思い出、田植えや稲刈り等体験したことを表現した絵が多いです。これまで出会えなかった題材には新鮮さを感じました。どの絵からも美味しいごはんを食べることの出来る幸せ、収穫への期待や感謝の気持ちが伝わってきます。明るく楽しく心豊かな絵を今後も期待します。

●青森県知事賞 青森市立浪打中学校 3年 三浦 一花 「すくすく育つ」

無心に寿司をほおぼる子、その子を気遣いながら食べる子。二人の顔の表情、元気そうな肌の色、やわらかい髪の毛、新鮮な寿司の表し方が実に巧みです。差し込む日差しが部屋全体を明るくし、赤ちゃんの世話をしている人が奥行きを感じさせ、背景のピアノが人物を際立たせています。全体にきめ細かい配慮があり、見る人を引きつける力作です。

●青森県教育委員会教育長賞 八戸市立是川小学校 5年 中居 凜鳳 「田植えてむずかしいな」

人物を中央に大きく配置してとても迫力のある絵になりました。苗を曲がらないように、丁度良い深さに植えようとする真剣な顔の表情、大きくかがめた腰から一生懸命さが伝わってきます。遠くの人物や空を描いたことで水田の広さを表しているし、茶色の土の上に水色の絵の具を重ねてぬかるむ様子も見事に表現していて感心しました。

●青森県農協中央会会長賞 七戸町立城南小学校 2年 免内 蒼士 「おじいちゃんのおこめでみんなでもちつき」

題名のとおり、にぎやかな餅つきの様子が分かるようにとても工夫しています。中心に餅をつく人を大きく力強く目立たせています。そして、満足そうな顔のおじいさんをはじめ、大勢の人達の嬉しそうな顔が周りを取り囲んでいます。その時の様子を思い出しながら、頑張って描き進めていったことがよく分かります。収穫の喜びが伝わってくる素晴らしい作品です。



青森児童美術研究会

理事 佐藤 理子

今年も思いが込められた多くの絵に出会うことができ、大変嬉しく思います。ごはんの絵にはその時々楽しい思い出が、米作りを体験した絵にはお米を大切にする思いが素直に表現されていました。これからも、ごはんやお米との関わりに思いを寄せ、美味しいごはんを食べることのできる幸せを感じながら描かれていくことを願っています。

●青森県知事賞 青森市立浪打中学校 3年 三浦 一花 「すくすく育つ」

小さな兄弟への優しさや家庭の温もりが感じられる絵です。水彩絵の具を効果的に使い、柔らかで透明感のある着色の仕方が工夫されています。鮮やかで美味しそうなお寿司や顔の表情、お寿司を持つ手指などの巧みな描写に心奪われました。そして吸い込まれるようにピアノや奥の部屋の家族が目に留まります。人物の大きさだけでなく表現の緻密さの違いによって親近感を出す高い表現力に感心しました。

●青森県教育委員会教育長賞 八戸市立是川小学校 5年 中居 凜鳳 「田植えてむずかしいな」

画用紙を縦に使い、田んぼと田植えをする人物と空という明快な画面構成が印象的な絵です。体を丸め大事に大事に苗を植える姿に強く引きつけられました。水が張られた田んぼや空や衣服の表現には、混色や重色、筆使いなどの細やかな表現の工夫も見られます。体を丸めながら丁寧に苗を植える描写にも、米作りに対する真剣な思いが表れています。

●青森県農協中央会会長賞 七戸町立城南小学校 2年 免内 蒼士 「おじいちゃんのおこめでみんなでもちつき」

おじいちゃんのお米で行う「もちつき」は、みんなで待ち望んだ嬉しい行事であることがよく分かります。登場する一人ひとりの細やかな描写や丁寧な着色に感心します。おじいちゃんをはじめ、みんなへの優しい気持ちが伝わってくる絵です。まわりを淡い黄色にしたことが人物や道具を目立たせ、もちつきの場をより明るい雰囲気になっています。